

会 報

# 鳥 取

第 22 号

2010年 1月



仁風閣（国指定重要文化財）

目 次

新年の挨拶（連合会会長）	2	センター紹介	20～21
新年の挨拶（鳥取労働局長）	3	趣味のひとつ	22
理事長の抱負	4～12	会員のひろば	23
平成21年度事業実施状況	13～14	SP講習に参加して	24～25
平成21年度SP事業実施状況	15	鳥取県の最低賃金	26
平成21年度SP受講者データ	16	連合会あいさつ	27
合同面接会・SSP事業実施状況	17	会員名簿・あとがき	
健康シリーズ	18～19		

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

# 新年のごあいさつ



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 宇野 治 巳

新年あけましておめでとうございます。シルバー人材センター事業に携わる皆さまには、お健やかに初春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

当連合会は、皆様方の温かいご支援ご協力によりまして、順調に事業が運営されておりますこと、心からお礼申し上げます。

我が国は、人口減少と高齢化、グローバル化の急速な進展と国内での格差の拡大といった経済・社会構造の激しい変化に直面しています。

今、景気は若干持ち直しているともいわれていますが、高い失業率や求人倍率の低調など、国民生活を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況であります。申すまでもなく、今必要なことは、病気や失業・老後といったリスクへの不安に対し、国がきちんとしたセーフティネットを整備し、国民一人ひとりに安心感を与えることが強く求められているのではないのでしょうか。

これが、経済成長や財政の健全化につながるものと確信しています。

長寿社会が当たり前となっている今日、人生80歳時代の中で、定年後の膨大な自由時間は、明確なプランがないと「退屈と寂しい」ものとなってしまいます。

定年後の「セカンドライフ」を充実していきたいものです。

世界に先駆けて、国民4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎え、「生涯現役」を実践し、全国的な組織であるシルバー事業に対する期待は、ますます大きくなってきています。

先日、行政刷新会議の事業仕分けが行われ、シルバー事業に対する来年度予算要求額的大幅な縮減など、厳しい評決となりました。

シルバー事業は、今後とも地域・地域で知恵を出し合い、力を合わせることによって、この財政改革を乗り切り、シルバー人材センターが労働と福祉にまたがる新たな発想によ

る高齢者事業として、その使命と役割を果たし、地域の活性化に努めることとしています。最後になりましたが、県下各シルバー人材センターの益々の発展と、皆さまのご健勝を祈念申し上げます。



# 新年のごあいさつ



鳥取労働局長 佐々木 秀一

新年あけましておめでとうございます。  
鳥取県シルバー人材センター連合会並びに各シルバー人材センターの皆様には、ご健勝にて新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は労働行政の推進に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、シルバー人材センター事業が、地域に密着し、多くの高齢者の方々に就労の場や社会参加の機会を提供すること等を通じて、地域社会の活性化に重要な役割を果たしていただいていることに対し、あらためて関係の皆様へ深い感謝と敬意を表する次第であります。

さて、ご承知のとおり、我が国の高齢化は先進諸国がかつて経験したことのない早さで進んでおり、一方では人口減少社会の到来により労働力が減少する中で、経済社会が活力を維持していくためには、働く意欲のある高齢者自らが社会を支えていくことが大変重

要となっておりますが、長引く景気低迷等の影響を受け、特に高齢者を取り巻く雇用環境は一層その厳しさが増しており、就業意欲の高い高齢者に対する雇用の場を確保することが強く求められているところであります。

さらには、団塊の世代の方々がまもなく65歳を迎え、職業生活からの引退過程に入るといった状況の下で、ボランティア活動や社会活動への参加等、高齢者の地域における多様な就業、社会参加のニーズに応じた機会を確保・提供していくことは益々重要となっております。

このような状況の中で、昨年国は政権交代するという非常に大きな変革の年となり、行政刷新会議の「事業仕分け作業」にみられるように、今後、様々な事業やそれらを取り巻く環境に大きな変化が予測されるところですが、全国平均より早く高齢化が進行している本県にあつては、地域に密着し、活力ある地域社会づくりに貢献するシルバー人材セン

ター事業が、今後益々重要となることを忘れてはなりません。

鳥取労働局といたしましても、シルバー人材センターの重要性を年頭に当たって改めて認識し、県及び市町村との連携を図りながら、引き続きシルバー人材センター事業を積極的に支援・推進して参りますので、今後とも一層のご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、シルバー人材センター事業の今後のますますのご発展と、職員並びに会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## シルバー人材センター 理事長の抱負



鳥取市シルバー  
人材センター

理事長 木島敏行

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年末は、行政刷新会議における事業仕分け作業が行われ、時間をかけた十分な調査・審議が行われなまま、全シルバー人材センター一律の評価が行われたことは、誠に遺憾の意に耐えられません。

新しい年明けとともに、関係機関にシルバー人材センターの置かれた立場を再認識いただき、素晴らしい一年となることを念願するものです。

当センターの今年の目標は、「公益法人化を目指して歩む年」と位置づけて、認定に向けた取り組みを具体化してまいります。

また、景況が回復しない状況ですが、こういふときだからこそ、「自主・自立・共働・

共助」の基本理念のもと、会員・役職員が一体となり、地域社会から信頼され、地域社会に貢献するセンターを目指し、次のような取り組みを行ってまいります。

- 一 会員の増強と会員組織活動の充実
  - 一 就業機会の確保と拡大
  - 一 就業の質の向上及び後継者育成
  - 一 安全・適正就業の推進
  - 一 会員の健康管理と福利厚生
  - 一 一般労働者派遣事業
  - 一 指定管理者としての駐輪場の管理運営
  - 一 独自事業の推進
  - 一 適切な財政運営の推進
  - 一 第二次中期事業基本計画の推進
- 今年も、皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願いし、関係各位のご多幸とご健康をご祈念申し上げて、新年のご挨拶とします。



米子市広域シルバー  
人材センター

副理事長 後藤 巖

新年あけましておめでとうございます。

シルバー連合会会員、事業関係者の皆さまにおかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

当センターは、地域の皆さまのご支援のも

と、米子市・日吉津村など関係機関のご支援と会員皆さまのご協力により、順調に事業運営が図られていますことを厚くお礼申し上げます。

現在、国及び地方自治体の行財政改革の流れによる補助事業及び公共事業は経験のない厳しい状態で、相変わらず民間事業の需要も景気の低迷により非常に限定的です。また、公益法人の新しい制度移行も既に動いております。

このような最近の状況の中、安全・適正な就業はもちろんのこと、国の施策のもと二〇一〇年度までに会員数、百万人の目標値が掲げられた活性化計画も示され、高齢者や地域にとって魅力ある、バランスの取れた事業展開が課題となっています。そして、昨年の新しい政治によって、来年度以降、国の予算はより一層厳しいものになるものと思われま

さて、当センターでは、一昨年から高齢者及び障害者の介護・生活援助サービス、高齢者の多様な社会参加促進を有機的に実施することを目的に、企画提案方式「安心な生活・子育て応援事業」を始めておりますが、高齢者市民の意欲と能力を活用し、公的、あるいは民間サービスの補完の働きを発揮するために、拠点施設「ふれあいセンター」で始めた学童保育事業がその一つです。着実に利用者が広がっています。シルバー事業が市民生

活における「担い手」の一翼を担うものとして、県民の皆様方のご理解をいただきたいものと思えます。

「自主・自立・共働・共助」の理念のもと、さらに会員の皆さんの運営参画を促進し、限られた財源での効率化・重点化を進めながら、充実に努めてまいりたいと思います。

複雑な社会経済環境の中ではありますが、明るく活力に満ちたシルバー人材センター事業の飛翔を目指し、関係者皆さまのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



（畑倉吉市）シルバー人材センター

理事長 中林正樹

皆さまには、平成二十二年の新年をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、我が国の経済状況は、個人消費は持ち直しの動きがあるものの、雇用情勢は厳しく、また、物価の動向は緩やかなデフレ状況であるなど、シルバー事業を取り巻く環境は依然として厳しい中で、昨年十一月末までの、事業実績は、前年同期と比較し、受注件数・就業延人員は微増となっていますが、会員数・契約金額は減少し、特に、契約金額は五百七十七万円余の大幅な減少で推移していると

ころです。

加えて、昨年十一月の国の行政刷新会議で、来年度予算の概算要求において、必要性や効果が低いと見られる事業を洗い出す「事業仕分け」が行われ、シルバー事業においては、「センター活動は一定の役割を担っている」としつつも、補助率が高すぎて効率的な運営がされていないうえ、民業を圧迫しているとの指摘があり、今後、運営補助金の大幅な削減が予想されるため、事務局体制の縮小や経費の更なる削減などの検討を行っていかなくてはなりません。

このような状況の下で、会員一人ひとりが身近な地域で新会員への勧誘や、家庭や事業所等からの受注の確保を行っていくことが、しごとを増やし民業圧迫を解消していく基本であると捉えています。特に、少子高齢化時代において、「家庭」からの受注は、「就業機会の拡大」とともに、発注者（主婦）の方が会員になられることも期待できると考えているところです。

このため、本年は、センターの地域班や職群班などの組織をフルに活用し、「会員による会員のためのセンターづくり」に一層努めてまいり所存です。



（畑境港市）シルバー人材センター

理事長 西村岩市

平成二十二年新年を謹んでお祝い申し上げます。

明るさの见えない地域経済状況の中で、鋭意努力してまいりました。シルバー人材センターは、法に定められた「高齢者の就業の機会を確保し、もって高齢者の福祉の増進に資し」「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念とし、地方公共団体と連携し、地域に必要な各種事業を進めてきましたが、この度の「行政刷新会議による事業仕分け」による補助金30%減額は「当センター」にとっては死活問題となり、運営に重大な影響を及ぼし、存続基盤を脅かしかねません。

就任浅い理事長ですが、就任以来、地方の実態も十分に把握していない「全国シルバー人材センター事業協会」とは「期待のできる団体ではない」という気持ちで過ごしてきましたが、この度の結果ではないでしょうか。

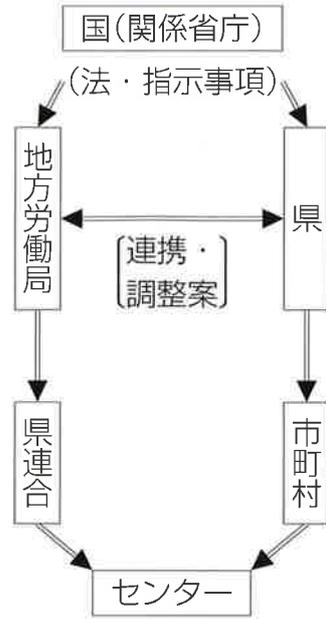
ちなみに、「事業協会」平成二十一年度一般会計収支計算書によると、我々が拠出した正会員会費・賛助会員会費収入が一億七千九百十九万円余、役員給与手当・退職給付支出が約一億八千八百七十九万円余。当然、国

庫補助金内にて支払されていると思いますが、このような高額役員が必要であったでしょうか。地方の「センター」にとっては、失望の至りです。

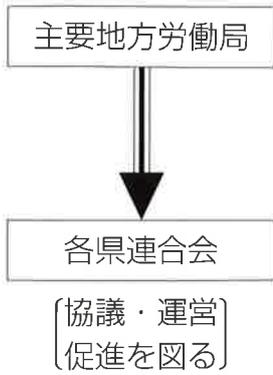
そこで、今後の運営組織体制ですが、私の案を申し上げ、先輩理事各位のご指導をお願いいたします。

**今後の運営計画**

(案)図Ⅰ



(案)図Ⅱ (緊急事案発生の場合)



中国ブロック運営  
促進協議会 (設立)

県に参画していただくことにより、県内に促した事業が実施できると思います。

図に示したように、今後は、県に参画していただくこと。Ⅱ案のように、1局東京主体ではなく、「中国ブロック」単位での運営促進を考えられないものかと思えます。各々の「センター」が二十余年の運営に従事してまいった現在、さしたる問題点が起こると思いません。

諸先輩各位理事様のご意見・ご指導をお願いし、年頭のご挨拶といたします。



（社）南部広域シルバー人材センター  
理事長 田子 貢

新年あけましておめでとうございます。

皆さまには、ますますご健勝で新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

日頃より、皆さまにはシルバー事業につきまして、ご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

最近の世界不況により、シルバー人材センターも影響を余儀なくされていますが、地域の皆様をはじめ、町や事業所のご理解を得、事業展開した結果、じゃっかんの事業の減となっておりませんが、会員をはじめ、役員・職

員が一つになって対応しているところです。

昨年は、長く続いていた自民党政権より民主党政権に政権交代がありました。

これにより、昨年十一月には行政刷新会議が開かれ、我々のシルバー人材センター事業につきましても、事業仕分けにより国の補助金が三分の一の減額となることとなりましたが、南部広域シルバー人材センターでは最終的にいくら補助金がかかるのか、また地元の町からの補助金がいくらになるか油断ができません。

いずれにしましても、昨年度より補助金が少なくなりそうですので、この危機をどうやって乗り切っていくのか、会員の皆さんをはじめ、役員一丸となつて、英知を結集し、立ち向かってゆかねばと考えるところです。

シルバー事業は、この危機を乗り越えるには、初心に帰り、親切丁寧な仕事を一つずつ積み上げながら、誉められるような仕事をすることが大切かと思えます。

今年は、シルバー事業の大きな曲がり角にきていますが、皆さまのご支援とご協力により、この難局を必ずや乗り切っていけるものと確信しております。

最後になりましたが、関係各位のご健勝とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とします。



智頭町シルバー  
人材センター

理事長 小林 實夫

新年あけましておめでとうございます。  
各シルバー人材センター会員の皆様、関係各位の皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。  
さて、本年は、「シルバー人材センター」にとつて、その存在意義をとわれる重要な年となります。

これは、平成二十二年度予算の概算要求段階での所謂、行政刷新会議の「事業仕分け作業」において、シルバー人材センター援助事業も予算縮減の評価結果を受けたものです。

昭和五十五年度以来、三十年間続いた事業が、既得権益との問題点として指摘されましたが、各センターそれぞれの事情を把握し、判断されたのか疑問が残ります。勿論、我々センター事業を預かる一員として、反省改めなければならぬ点もあると率直に認めざるを得ません。

ともあれ、どのような状況であれ、「シルバー人材センター」の果たす役割は、高齢化社会が進む中で、より一層増しており、当智頭町において、無くてはならない存在であると自負しております。我々、シルバー世代が

先頭になって頑張らなくては、地域の発展はないものと思っております。

今更ながら、設立当初に立ち返り、モットーである「高齢者の技術・能力と知識・経験を活かし、行政の谷間の補完をする」を再認識しながら、事業活動を推し進める所存です。

本年も、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願いし、最後になりましたが、県シ連を始め、各センターの益々のご発展を祈念し、新年のご挨拶とします。



智美町シルバー  
人材センター

理事長 谷口 幹彦

謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様、関係者の皆様には、日頃よりシルバー事業に多大なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、新聞やテレビでご承知のように、国

では、来年度の予算編成のために、さまざまな事業を見直し、「事業仕分け」として、シルバー補助金の三分の一を減額するという方針を打ち出しました。

このような大幅削減の仕分けは、シルバー事業の存続を根底から揺るがしかねない重要な問題です。シルバーは、国及び地方公共団体からの補助金と会員の働いた配分金の一部でもって運営経費に充てられている現状では、深刻な影響を及ぼすからです。

県下には、十六のシルバー拠点があり、四千二百人ものが員が、「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念に、日夜、事業推進にあたり、地域社会にとつてかけがえない存在となつていいることは、紛れもない事実です。

国の仕分けの方針どおり実施されれば、契約金の減少、会員の増強がままならない現在の状況にある中で、会員配分金の減額・発注者の負担増・人件費の削減という事態になりかねません。

このような観点から、国へは補助金削減の見直しをお願いし、町へは補助金の現状維持存続を強く要請しているところです。岩美町では、幸いにも町長・町議会からも力強い支援の方向性をお聞きし、安堵しているところです。

皆様には、このような現実を踏まえ、シル

バー事業への一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。  
シルバーを取り巻く環境が、明るい方向へ転換することを切に願って、年頭のご挨拶といたします。



（右）湯梨浜町シルバー人材センター

理事長 足立春人

平成二十二年の新春を迎え、皆様にとつて本年がよい年でありますよう、お祈りいたします。

皆様もご承知のように、全国的に少子高齢化が進み、我が湯梨浜町でも六十五歳以上の方が四千七百五人で、全体の二十六%を占めており、今後急速に進展する少子高齢化の中で、労働力不足を解消するため、経験豊富な業務に精通した人材を確保し、併せて高度な技術を後輩に継承することが求められています。

国では、若年労働者が減少する一方で、働く意欲と能力の高い高齢者が増加していることから、定年を引き上げて、少なくとも六十五歳までは希望者全員が働くことのできる社会を構築するための取組みが行われています。

ところで、今回民主党に政権が交替し、行政刷新会議の作業グループにより「事業仕分け作業」が始まり、あらゆる無駄を省くという意味で、シルバー人材センターの補助金を三分の一程度縮減し、全国シルバー人材センター事業協会を廃止する等の方針が示されました。この、極めて厳しい方針に対応するため、本センターでは、県シルバー人材センター連合会の指導により、地元の湯梨浜町長及び議会議長宛に要望書を提出するとともに、会員のご協力により署名活動を展開し、たくさんの皆様からシルバー人材センターの存続について賛同をいただきました。

今後、シルバー事業を取り巻く環境は厳しい状況が続くと思われませんが、会員の皆さんと共に、シルバー人材センターの役割を十分に発揮し、町民の皆様々にセンターの存在意義を理解していただくため、そして町民の皆様々に期待されるセンターを目指して努力したいと考えております。



（右）琴浦町シルバー人材センター

理事長 足立慎夫

明けておめでとうございます。  
今や、超高齢社会を迎え、高齢者が「生涯

現役」として地域社会に占める役割の重要性が、強く求められております。したがって、各センターは「福祉の受け手から社会の担い手」となることを理念として、様々な事業に携わり、地域社会にとつて、かけがえのない存在となつていくところであります。

各会員は「誠心誠意」をモットーに、地域からの温かい支援を励みに、さらなる事業の充実と組織の活性化に向けて努力し、働くことを通じてそれぞれの生きがいを実現し、健康の維持に努めなければなりません。

当センターでは、今回、専門部会の設置が承認され、

- (一) 総務財政部会
  - (二) 事業部会
  - (三) 普及啓発部会
- を設けました。

今後、センター運営の活性化に努め、課題解決への積極的な対応の推進を図ることといたしました。昨秋には、さつそくグラウンドゴルフ大会を実施し、会員相互の健康の増進と親睦を深めることができました。さらに「花回廊」での研修を企画し、南部広域センターの役員の方々のご好意で、すばらしい実践の成果を学ばせていただくことができました。

センターをとりまく状況は、一段と厳しさを加え、危機的で極めて深刻な事態を迎えております。だからこそ、より確かな地域の信

頼を礎に、地域に貢献し、地域を支えているという自信と誇りを持って事業の推進にあたり、確かな前進につながる一步を踏み出さなければならぬと存じます。

会員各位が健康に留意され、「安全と信頼」をキーワードに、自分たちが横糸となつて地域を支えているのだという矜持をもつて活動されるよう念願するものであります。

今後、地域や産業において、センターに求められる役割は益々重要なものとなります。一層のご理解とご支援をお願いいたします。



（社）北栄町シルバー人材センター  
理事長 日置勝彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、自民党を中心とした長期政権から民主党を中心とした連立政権へと、政権交代が実現しましたが、新政府は予算編成にあたって、高額な累積赤字国債や不況下での税収不足による財源確保のため、事業仕分けによるムダ排除や歳出カットを推し進めました。

この仕分け作業によって、シルバー事業への補助金も削減の対象となっており、地域にシルバー人材センターとしては、存続の危機にあると言っても過言ではありません。

大幅な補助金削減で、危機に立っているシルバー人材センターの存続については、上部機関の指導を受けながら、全力をあげて取り組むことは当然のこととし、全シ協や県連合・拠点においての管理費等経費縮減を図るなど、自らの管理体制も見直しすることも必要ではないかと思えます。

こうした厳しい情勢の中、北栄町シルバー人材センターとしては、利用者の要望に応え、高齢者が培ってきた知識や経験を活かすことによつて、利用者に喜ばれ、自らの生活費の補助にもなり、何よりも健康で生きがいとして作業ができ、社会貢献として地域に恩返ししている会員の就業のことを第一に考えることこそ、役職員の任務だと考えます。

そのために、企画提案や新規を含む作業依頼を図るなどの取り組みを強化し、就業機会の創出に力を注ぐとともに、新会員の獲得にも積極的に取り組み、自治体にシルバー人材センターの存在の必要性を認識させることも重要なことと思われまますので、理事会で十分に検討を行いたいと思えます。

以上のような取り組みとともに、事故防止のために安全対策に意を注ぎ、重篤事故防止には特に注意を喚起していきたいと思っております。



（社）大山町シルバー人材センター  
理事長 林原彦一

会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。新しい年にあたり、皆さんそれぞれに、今年はこの年でありたいと色々思いを巡らせておられることと思いますが、私たちの思いとは裏腹に、政治や経済の変化が昨年後半から続いています。変身という言葉があります。昨年に変身の年ではなかったかと思えます。

戦後、一貫して日本の民主主義をリードしてきた自民政権が、60年過ぎ振りに民主党政権に変わりました。私は、そのことに関しては大いに歓迎しました。

しかし、その後、思いもなかったことが起こりました。十一月十三日の事業仕分けと行政刷新会議で、シルバーがやり玉に上がり、予算の三分の一縮減という、まともに受けられればシルバーの存亡に係るようなことが、真顔で議論されました。混迷を続ける政治と経済、今年もビククリするようなニュースが飛び込んでくるかも知れません。

しかし、今シルバー人材センターは着実に確実に地域に定着してきました。ここで撤退するわけにはいきません。

今後、大きな進展・展望は望めないかも知れませんが、これまで積み上げてきた実績をできるだけキープすることを目標に、今年も頑張りたいと思います。

全シ協・連合会を中心に、安全就業に対してご指導・情報提供をいただいておりますが、全国レベルでは事故は減っていないのが現状です。大山町シルバー人材センターは、これまで大きな事故はありませんでした。それを良いことに、十分な取組みをいたしませんでしたが、今年は、特に力を入れていきたいと思っております。

行政との連携による就業開拓や儲かる独自事業も模索してみたいと思っております。

不安要因を抱えたままの年明けとなりましたが、会員の総力で結果を残せる年にしたいと念じます。



(一社)八頭町シルバー人材センター  
理事長 衣笠春壽

新年明けましておめでとうございます。

各シルバー人材センターの皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

一昨年十二月に法人化への設立総会を終え、

昨年は、初めて国都庁より補助金を受け、一年間活動してまいりました。

幸いにも、一年を通じて事業・会員数とも順調に伸長し、ある程度の成果を上げることができ、役員一同喜んでいるところです。要因は、地域住民のシルバー人材センターへのご理解を始め、町長を中心とした町当局のご支援・ご協力、又会員皆様に支えられた結果だと考えます。

昨年を振り返ってみますと、補助団体に移行したこともあり、事業の拡大を図るため、新しく就業開拓員を任命し、色々な面で活動しておりますし、新会員でも若い層の加入が増加し、就業する機会が多くなったことも、これまでにない特徴であると思っております。又、役員の意識も以前と比べ変化してきているところもあると思っております。

しかしながら、当シルバーはまだ一年生であり、組織的にも運営面でも、まだまだ未熟でありますので、県連合会の皆様、各シルバー人材センターの皆様方のご指導をお願いするところでもあります。

さて、昨年はこれまでの自民党から民主党政権に変わり、これまでいろいろテレビ・新聞等で報道されておりますが、とりわけ、事業仕分けでシルバー関係の予算をこれまでの三分の一減額することが示され、全シ協と県シ連を中心に補助金の確保に努力されている

ところでありますが、新しい年を迎え、今年一年がどのような年になるのか、先が見えない厳しいことが予測されます。

このような状況の中、我々は役員一丸となると共に、町より一層のご支援・地域住民の方々とのふれあい・会員との情報交換等をししながら、更なる向上を目指したいと考えますので、今後ますますのご指導を賜りますことをお願いし、新年のごあいさつとします。



日野町シルバー人材センター  
理事長 瀬田寿幸

新年明けまして、おめでとうございます。

会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えることとお喜び申し上げます。

当センターは、昨年創立十周年を迎えました。これには関係機関のご支援と、会員の努力により事業運営が順調に図られています事に深く感謝申し上げます。

さて、皆様もご承知のように経済不況が続き、シルバー人材センターを取り巻く環境にも多大な影響を及ぼす状況にあります。

需要が低迷し、就業の機会も減少傾向にあります。事業運営にも深刻な課題を残す結果になりました。

しかし、私たちはこのような時こそ地域社会の、多様なニーズに応える事業の充実に努めなければなりません。

以前にも増して少子高齢化が進む中、シルバー人材センターの役割が高齢者を見守り、困りごとに対応した就業実績は住民の皆さんから評価を得るようになり一層の重要性が増しています。

私たちのシルバーは、会員の地道な活動を通してより確かな実績を上げる事で、更なる信頼に応える事業展開をいたしたいと考えています。

終わりに、明るく活力あるシルバー人材センター事業の飛躍を目指し、皆様の活躍を祈念申し上げます。



日南町シルバー  
人材センター  
理事長 山浦基治

会員の皆さま、明けましておめでとございます。

今年こそ、力を合わせて頑張りましょう。

昨年は、政権交代がなされ、鳩山内閣が誕生し、国の予算に係る事業仕分けが行われ、全シ協からの通達によりますと、今の助成金が三分の二に大幅減額される状況にあります。

今、二十二年度予算の査定の時期であり、我々も立ち上がり、十二月八日、県連合会長の支援要望書を持ち、町長宛に要望いたしました。町行政担当課長へ趣旨を伝え、お願いしたところ、シルバー人材センターの活動を大変重要視されており、現状維持で支援をした旨の回答を得ました。

最終的には、議会の決議により決定されるが、これ以上助成金を減らされると、事業運営に支障をきたすこととなり、事務費八パーセントを引き上げれば、発注も激減し継続も困難となるので、何とか現状維持をお願いしたく思っております。

国の考え方は、条件の良い仕事は民間に、割に合わない仕事がシルバーへといった施策がとられており、改善しなければなりません。もっと仕事があれば、会員募集ができるし、会員も入会して仕事ができ、高齢者の生きがいにつながります。この田舎では、独居老人が多くて、せいぜい家の周りの草刈りや清掃が主な仕事ですので、もっと公共の仕事が増えれば、活性化も図れます。

昨年は、前年の八十パーセント位の実績ですが、将来的には、一〇〇万円台に載せる計画を持っております。これも一重に理事並びに会員の努力が最も大切であります。

今年も、皆さまのご指導とご鞭撻をよろしくお願いし、元気でこの不況を乗り切つてま

いりましょう。



江府町シルバー  
人材センター  
理事長 宇田川 勉

新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、私事ではありますが、年度当初の第二回理事会において、理事長の大役の任を受けました。以来、何も分らないうちに半年間が過ぎました。

七月には、県シ連主催の「安全・適正就業」の研修会が倉吉シティホテルで開催され、四名が参加し、研修しました。

八月には、「協同型ボランティア促進事業」の河川草刈を実施しました。

十二月には、会員相互の交流・親睦を図るため、「忘年・親睦旅行」を実施し、二十二名の参加をいただき、有意義な一日を過ごしました。

昨年度の事業実績集計表と本年度の集計表の対比を見ると、順調に推移しているように思います。

不況の波は、景気の後退・失業者の増加を

招き、地域社会に暗い影を落としています。

加えて、地方自治体の財政悪化は、公共事業の減少に伴う建設業界を始めとする企業倒産に歯止めがかからない状態となっています。

一方、私どもの生活に直結する各種公共料金の値上げを筆頭に、助成金のカットは、福祉事業に至るまで目に見えない形で生活を圧迫しています。

このような社会情勢の中で、組織としていかに立ち向かっていくのか、難題は山積みしています。今こそ、軸足を見直し、この不況を逆手にとり「経験」「技能」「知恵」を前面に据えて、地域に貢献する主役を目指し、更なる努力を傾注する決意を、会員ともども新たにしています。



三朝町シルバー  
人材センター

理事長 **馬野忠嗣**

平成二十二年の新春を迎え、会員の皆様と共にお慶び申し上げます。

一昨年来の国内外の激動の中、特に経済不況の状況は政府が変わっても、何一つ明るい展望を見ることはできず、先の事業仕分けなものに見られたように、シルバー人材センターにあつては、高齢法第四十五条への理解

も乏しく、高齢者皆様が培ってきた地域社会への諸活動に、制限を思わせると共に、一般企業への圧迫発言内容等、私たちの組織にとつて、きわめて重大な課題を示しております。

自主・自立・共働・共助のシルバー基本理念に、今一度思いを寄せ、新しい年は、誇りを持ってシルバー人材センターの声・行動を大きく反映させたいものであります。

さて、三朝町シルバー人材センターは、設立八年目、会員約六十名の会であります。昨年度より、行政等からの補助金もない実質の自主・自立の会運営を行い、今日に至っております。

これもひとえに、会員諸氏の共働・共助の成果であり、一層、多種多様な地域の要望に、すばやく、そして責任を持って対応することを第一に、就業機会の拡大、また、会員の心身の健康づくりを柱に、さらに組織の前進を図りたいと考えております。

会員皆様のご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 平成二十一年度 事業実施状況

## 第一回臨時理事会

十二月二日(水)倉吉市において、先の行政刷新会議の「事業仕分け」により、平成二十二年シルバー人材センター援助事業予算要求の三分の一程度縮減の評価結果を受け、当連合会の対応を協議し、各関係機関に要望書を提出することを決議しました。



## 就業機会開発推進委員会

十月二十七日(火) 米子市で開催  
議 題

- (一) 平成二十一年度就業機会開発推進事業実施計画について
- (二) 平成二十一年連合・センター就業機会開発実施状況について
- (三) その他



## シルバー人材センター 事業普及啓発月間

全シ協では、毎年十月を「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」と定めて、シルバー人材センターの活動を通じて、広く地域の人々や行政等の理解と認識を深めて貰うことにより、シルバー人材センターの一層の発展と拡充を図ることを目的として、全国一斉に会員参加型の社会奉仕活動や住民との交流の輪を広げる運動を展開しています。

(社)鳥取県シルバー人材センター連合会では、「シルバーの日」(第三週の土曜日)を定めて、



啓発用ポスターの配布・米子市街でのリーフレット等啓発用品の配布を行い、各センターにおいてもイベント事業への参加、リーフレット・チラシ等の配布、公共施設等での清掃・除草等の奉仕作業を行うなど、多様なPR活動を実施しました。

## 平成二十一年度 経験交流大会

平成二十一年一月二十日(金)午前  
十時三十分から倉  
吉市において開催  
しました。

大会は、県内シルバー人材センターの役員・会員・市町村の担当者の方々、百八名の参加のもと、宇野連合会会長の挨拶の後、倉吉市の山口福祉保健部長・鳥取労働局の脇坂職業対策課長よりご祝辞をいただきました。

基調講演には、(社)全国シルバー人材センター事業協会業務部長の大山 弘氏から「シルバー事業の現状と課題」と題して講演をいただきました。

また、アトラクションとして、(社)倉吉市シルバー人材センター有志により「舞踊」を披露していただき、皆楽しく拝見できました。



午後からは、(社)倉吉市シルバー人材センター理事長の中林正樹氏より「シルバー人材センター事業運営」、(社)境港市シルバー人材センター事務局長の松本光彦氏より「シルバー派遣の取組み」について、それぞれ事例発表をしていただきました。

引き続き、大山部長・宇野会長・中林理事長・松本事務局長により、質疑応答・意見交換が行われ、成功裏に経験交流大会を終えることができました。



# 平成21年度シニアワークプログラム地域事業 実施計画

シニアワークプログラム地域事業は、(社)鳥取県シルバー人材センター連合会が活動拠点の協力ののもと、多種多様な技能講習を事業主団体と連携をはかりながら実施する事業です。

講習の種類は、長期講習(40時間を超える講習)と短期講習(20時間を超え40時間迄)の2種類となります。

平成21年度は、長期講習15回(介護講習3回を含む)、短期講習5回を計画し、順次実施しております。

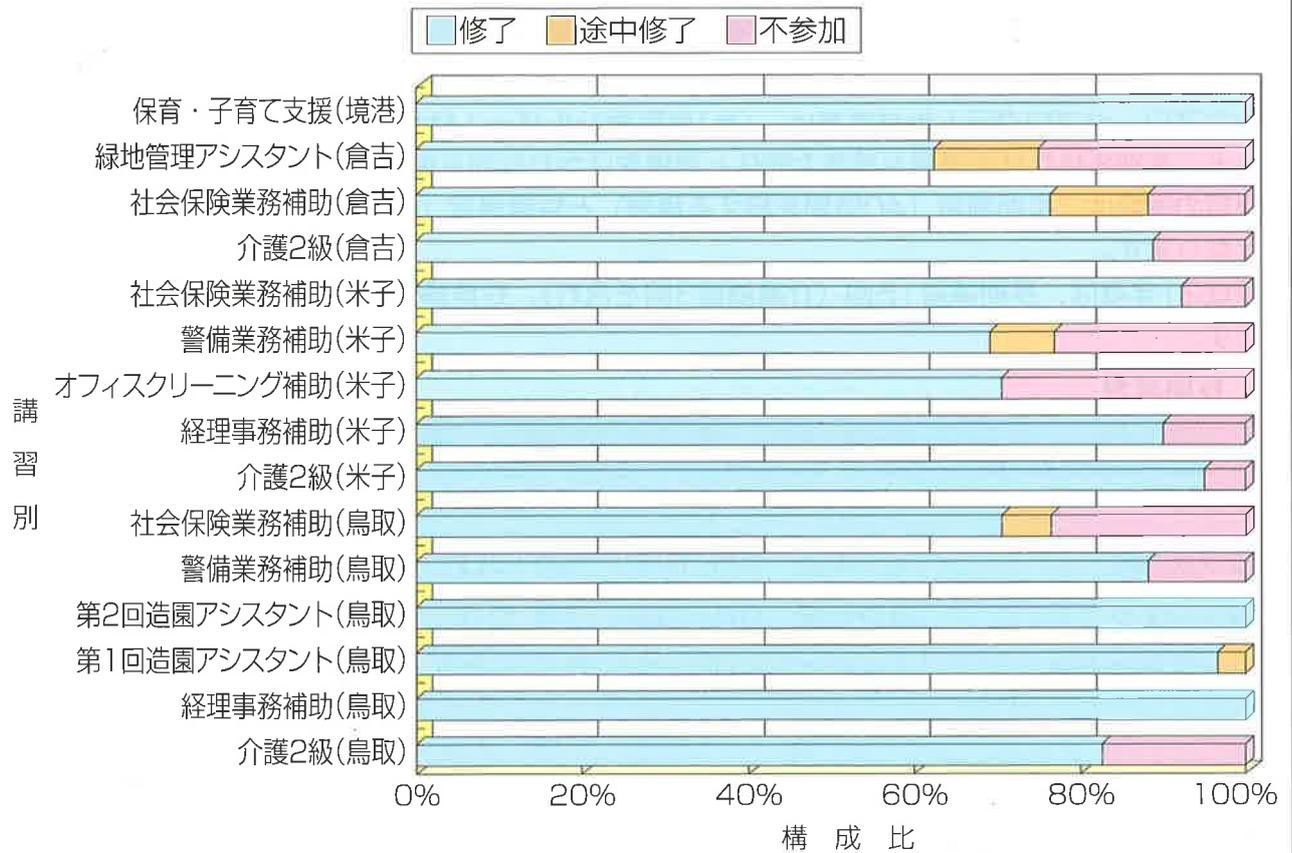
## 1. 長期講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
<b>技能講習</b>						
経理事務補助	米子会場	6月9日～6月19日	9日間	25名	18名	18名
造園アシスタント1	鳥取会場	6月22日～7月2日	9日間	25名	30名	29名
保育・子育て支援	境港会場	6月24日～7月3日	8日間	20名	13名	13名
経理事務補助	鳥取会場	7月13日～7月24日	9日間	25名	25名	25名
社会保険業務補助	米子会場	9月2日～9月11日	8日間	20名	26名	24名
緑地管理アシスタント	倉吉会場	9月7日～9月16日	8日間	20名	16名	10名
警備業務補助	鳥取会場	9月9日～9月18日	8日間	20名	17名	15名
オフィスクリーニング補助	米子会場	9月28日～10月7日	8日間	20名	17名	12名
社会保険業務補助	鳥取会場	9月30日～10月9日	8日間	20名	17名	12名
警備業務補助	米子会場	10月8日～10月20日	8日間	20名	13名	9名
社会保険業務補助	倉吉会場	11月4日～11月13日	8日間	20名	17名	13名
造園アシスタント2	鳥取会場	11月9日～11月19日	9日間	25名	30名	30名
<b>介護講習(2級課程)</b>						
訪問介護員養成研修	米子会場	6月26日～8月7日	23日間	20名	20名	19名
訪問介護員養成研修	倉吉会場	8月20日～10月2日	23日間	20名	18名	16名
訪問介護員養成研修	鳥取会場	9月24日～11月5日	23日間	20名	23名	19名

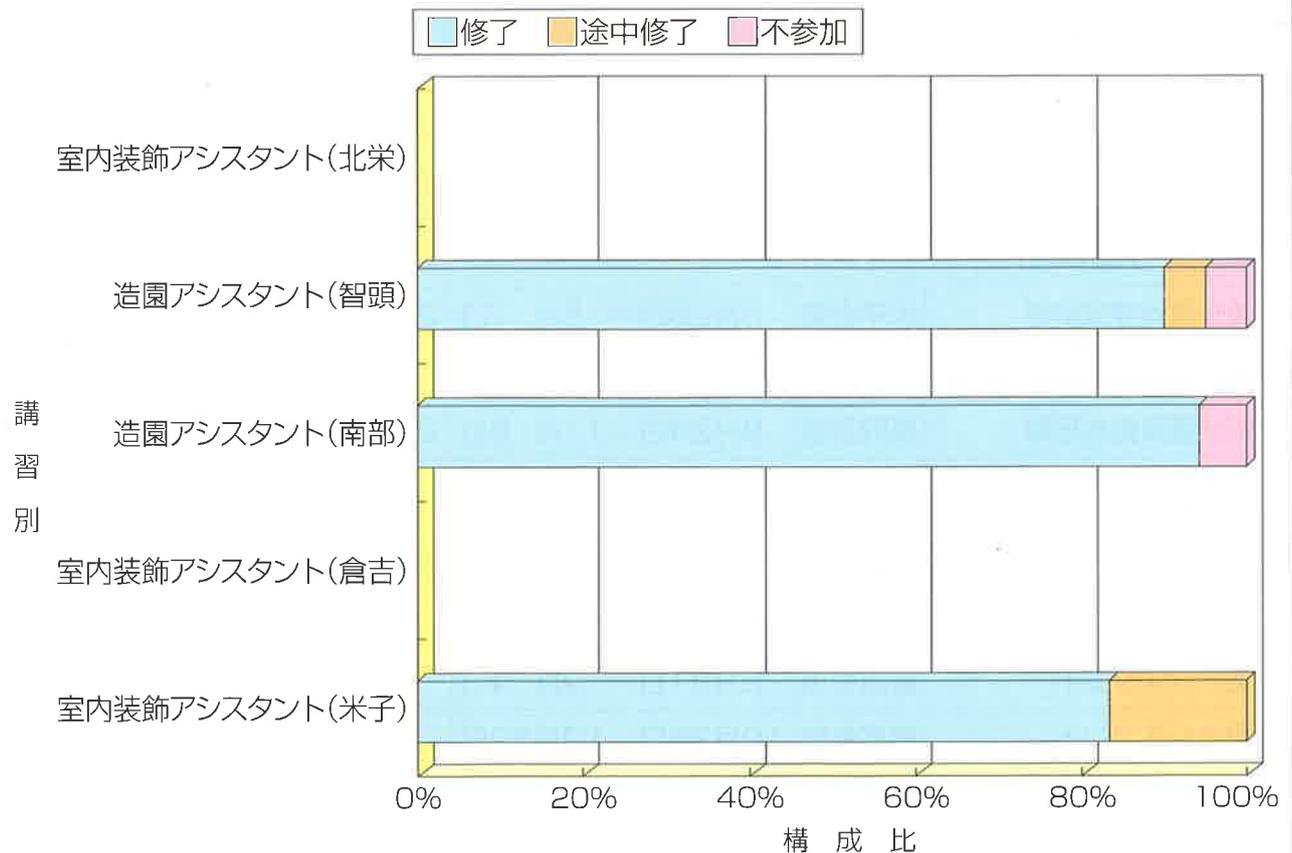
## 2. 短期講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	定員	受講者	修了者
室内装飾アシスタント	米子会場	6月2日～6月9日	6日間	20名	18名	15名
造園アシスタント	智頭会場	8月31日～9月4日	5日間	20名	20名	18名
造園アシスタント	南部会場	10月26日～10月30日	5日間	20名	35名	33名
室内装飾アシスタント	北栄会場	1月25日～1月29日	5日間	20名	—	—
室内装飾アシスタント	倉吉会場	2月3日～2月9日	5日間	20名	—	—

### 受講者データ（長期講習）



### 受講者データ（短期講習）



## 合同面接会の開催(地域別)

シニアワークプログラム地域事業の一環として、地域のハローワークとの共催により、各講習修了者及びハローワーク通所者及び一般の高年齢求職者を対象とした、地域別の合同面接会を実施しました。  
十二月二十五日現在、両地域の採用結果は三名決定しております。

### ◎東部地区

- ・日 時 平成21年11月25日(水)  
13時30分～15時30分
- ・場 所 白兔会館
- ・求 人 4社87名
- ・求職者 57名
- ・共 催 鳥取公共職業安定所



### ◎西部地区

- ・日 時 平成21年10月28日(水)  
13時30分～15時30分
- ・場 所 ホテルサンルート米子
- ・求 人 8社 37名
- ・求職者 35名
- ・共 催 米子公共職業安定所

## シニア就業支援 プログラム実施状況

本年度から厚生労働省鳥取労働局の委託事業としてスタートした『シニア就業支援プログラム』(SSP)事業も8ヶ月余りが経過し、新年を迎えました。この間、先ず登録会員の募集に力を注ぎ、平行して企業・団体等の会員登録と人材ニーズ調査を実施いたしました。

具体的には、

4～6月 広報資料(チラシ)、企業・団体等会員登録申込書および人材用会員登録申込書等のほか必要書類の作成、PCのマッピングシステム作成。チラシ等広報資料が出来上がった後、事業の広報と事業推進協力依頼に係る機関等を訪問。

6～8月 自治会、公民館、市民利用施設(美術館・公会堂・文化ホール等)訪問。

7～8月 保育園、幼稚園訪問(西部地区)。  
8月 協議会の発定準備・委員就任の依

頼に各種団体・関係協力機関を訪問。

人材用、企業・団体用のリーフレット作成。  
8～9月 県庁及び市町村役場・社会福祉協議会・県市町村民利用施設訪問。

10月 西部地区第1回就業相談会開催(相談件数39件)。

10～11月 企業・団体へ人材ニーズのアンケート(第1回)を実施しました。三三七社対象回答企業99社雇用計画企業21社高齢者の活用を検討する企業37社。

12月 人材募集のDM約一〇〇〇通発送。

県内各シルバー人材センター及び職業安定所を機軸に関係行政機関や各企業・団体等のご協力を得ながら事業推進に努めてまいりました結果、登録者数は約二五〇名、相談件数一三七件、マッチングして雇用・就業・ボランティア等の件数三三名となっております。

雇用・就業では民間企業の製造部門5名、郵便局のパート2名、青果市場の臨時職員、民間企業の管理人、資源再生工場、警備保障会社など(各1名)のほか、緊急雇用対策で税務署の事務員の仕事に就いて頑張っておられる方々がおります。

また、会員の中にはお勧めした地元のシルバー人材センターに入会され『先般、〇〇の仕事をしましたヨ!』と嬉しい電話をいただいた方も数名あり、底の見えない不況のなかで厳しい雇用情勢ではあるが、SSP事業に携わる私たち一人一人が真摯に活動すればそれなりの成果があると感じております。

健康シリーズ

『緑内障のお話』



山陰労災病院 眼科

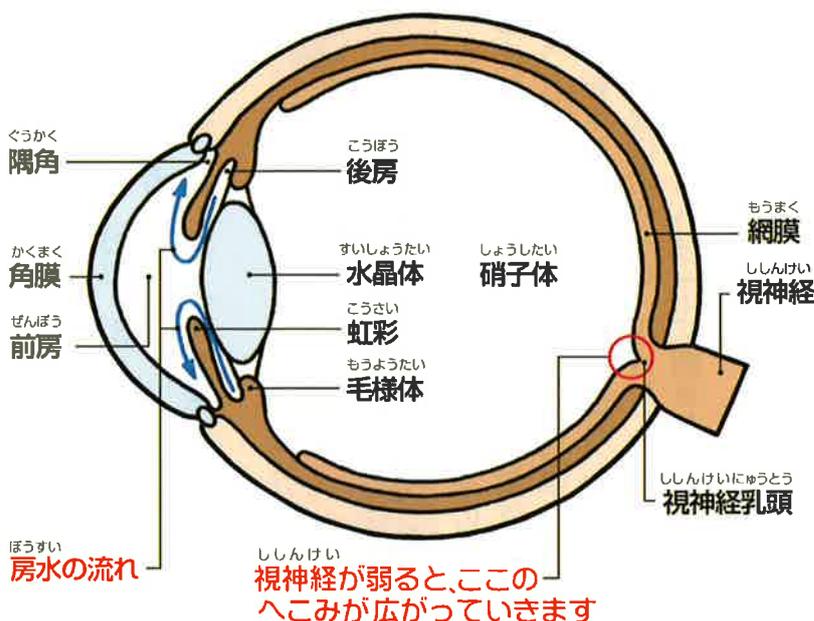
川口 亜佐子

緑内障は我が国における失明原因の上位を占めており、常に大きな問題として取り上げられています。二〇〇〇年から二〇〇一年にかけて岐阜県多治見市で行われた三千二十一人を対象とした大規模な調査では、40歳以上の方の緑内障有病率は5・78%であり、17人に一人であることがわかりました。しかも緑内障があるのにもかかわらず、これに気付かずに過ごしている人が大勢いることも判明しました。

最近の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような「緑内障＝失明」という概念は古くなりつつあります。現代医学を駆使しても失明から救えない極めて難治性の緑内障が存在することも事実ですが、一般に、早期発見・早期治療によって失明という危険性を少しでも減らすことができる病気であることは間違いありません。

■房水と眼圧

房水とは目の中を循環する液体のことで、毛様体で作られて、虹彩の裏を通過して前房に至り、隅角にある出口から排出され、眼外の血管へ流れてゆきます。この房水によりほぼ一定の圧力が眼内に発生し眼球の形状が保たれます。この圧力のことを眼圧と呼びます。



■眼圧の正常値

正常の眼圧は10～21mmHgとされています。しかし、これは健康人を対象とした調査に基づいて統計的に求められた値であって、この範囲にあるからといって緑内障にならないとは言いきれません。

■緑内障の定義

緑内障とは、視神経乳頭の異常と特徴的な視野の変化の両方あるいはどちらかがあり、眼圧を十分に下げることが視神経障害の改善あるいは進行を防止できる可能性のある病気と定義されています。古くから、眼圧が上昇することで視神経が障害される病気として理解されてきました。しかし、最近の調査で日本人には眼圧は正常の範囲にありながら、同様の視神経障害がおこるタイプの緑内障（正常眼圧緑内障）が一番多いことがわかりました。

■緑内障の危険因子

緑内障が発症する危険因子として40歳以上の方はもちろんのこと、もともと眼圧が高めの人、強度の近視がある人、遠視の人などがあります。まれですが遺伝性のもものもありま

すので、親や兄弟に緑内障が二人以上いる方も注意しましょう。糖尿病などの関連も示唆されています。その他に体の疾患などで長期にステロイドを内服したり、眼の周囲に使用している方も眼圧上昇をきたすことがありますので気をつけてください。

日常生活で「こういふことをしたら緑内障になる」ということは特にありませんが、喫煙は視神経乳頭の血液循環を低下させるため緑内障に対してあまりよい影響を与えません。緑内障だけでなく、健康のためにも禁煙・節煙をお勧めします。

## ■緑内障の症状

見える範囲（視野）が狭くなる症状が最も一般的ですが、初期は視野障害があっても全く自覚しないことがほとんどです。多くの場合、病気の進行は緩やかなので、かなり進行するまで症状に気付かないことがほとんどです。従ってたいていは健診や、結膜炎など他の疾患で眼科受診をしたときに緑内障を指摘されることとなります。視野障害が進行した場合は、視力が低下したり、場合によっては失明することさえあります。急激に眼圧が上昇した場合は眼痛・充血・目のかすみのほか、頭痛や吐き気を自覚することもあります。

## ■緑内障の検査

緑内障を診断したり治療経過の良し悪しを判断するには、多くの検査が必要です。

- (1) 眼圧検査
- (2) 隅角検査

主に診断のために行う検査で、専用のコンタクトレンズを用いて行います。

- (3) 眼底検査

視神経の障害の程度を判定するために行う検査です。視神経の眼球の出口（視神経乳頭）には、小さなくぼみがあり、緑内障ではこのくぼみが拡大します。健康診断などでは、よく「視神経乳頭陥凹拡大（ししんけいにゅうとうかんおうかくだい）」と判定されます。

- (4) 視野検査

見える範囲を調べる検査です。緑内障の進行具合を判断するために、最も重要な検査です。

## ■緑内障の治療

緑内障は、眼圧を下げることでできれば、その進行を防止したり、遅らせたりすることができると可能性のある病気です。ただし、ひとたび障害されてしまった視神経は、残念ながら回復することはありません。しかし、早期に緑内障を発見できれば、言い換えれば、

まだ視神経の障害が軽いうちに手を打つことができれば、視野障害を自覚するようになりたり失明に至る危険性はぐっと少なくなります。治療方法としては、薬物療法（主に点眼薬）・レーザー治療・手術がありますが、すべての緑内障に対して同じ治療効果があるのではなく、緑内障のタイプやそれぞれの人に適した治療方針を決定してゆくことがとても重要です。多くの方が慢性の緑内障ですが、その大部分は薬物療法で経過を見ることが可能で決して恐れるものではありません。定期的な受診して検査と診察を受け、緑内障が進行していないかどうかを確認していくことが重要です。



# シルバー人材センターの紹介

## (社)境港市シルバー人材センター

事務局長 松本光彦

境港市は、古くは北前船の寄港地として、また隠岐島の玄関口として賑わい、今日では、日本有数の水揚げを誇る漁港や商港の整備も充実し、諸外国からの定期貨物船や境港〜韓国東海〜ロシアウラジオストクを結ぶ定期貨客船イースタンドリーム号が就航しています。

米子空港は、二五〇〇mの滑走路が竣工して、12月17日には山陰初のハワイ直行便が飛び立ち、名実ともに空と海の一大拠点として発展してい



ます。

観光面では、境港市出身の漫画家、水木しげる氏の「ゲゲゲの鬼太郎」のオブジェを配置した水木ロードや記念館を中心に、「さかなと鬼太郎に会える町」として、大勢の観光客で賑わう、面積が28・79平方キロメートル、人口は三万六千二百九十二人、高齢化率25・29%の市であります。

ります。

境港市シルバー人材センターは、平成3年10月1日に設立され、現在の会員数は二百五十一

名で減少傾向にあり、活性化計画の「平成21年度末には三百五十九人」の計画にほど遠い現状であります。

平成20年度の受注件数は、二千九百八十三件、就業延人数（人日）二万一千三百八十七人、契約金額は九千六十三万八千八百二十円で、公共からの契約額は落ち込みまし



たが、企業や家庭からの契約額が増加したことで、全体では対前年70万円弱の減額で収まり、安堵しました。

平成21年度は、12月現在で、対前年比81・6%と大きく落ち込んでおり、危機を感じていたところに、行政刷新会議の「事業仕分け」で「シルバー人材センター援助事業への補助金は1/3程度の縮減」が評価結果として出されたところであり、そのまま実施されると、大きく落ち込んでいる受託額と相まって、センターの存続に係わる重大な事態であることは間違いありません。

さらには、公益法人制度改革も平成25年11月30日までに解決しなければならない課題も横たわっており、シルバー人材センターを取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。

シルバー人材センターを存続させ、会員の皆さまの就業機会を確保するためにも、関係機関と知恵を出し合い、この危機を乗り越えていこうではありませんか。

**(社)北栄町シルバー人材センター**

事務局長 岩垣 毅



来賓(松本町長)あいさつ

北栄町は、北は日本海に面し、白砂青松の広がる砂丘地帯があり、南には黒く島嶼の丘陵地帯が広がる地形で、総面積は五十七・一五平方キロメートル、人口は一万六千二百六十五人(十二月一日現在)です。

「北栄町」では、豊富な資源と知名度の「名探偵コナン」・風車をシンボルとした環境に優しい町づくりを進めています。

当シルバー人材センターは、行政の合併と同時に(社)北条大栄広域シルバー人材センターから現在の(社)北栄町シルバー人材センターに衣替えし、発足したところです。現在の会員数は、百五十八名、平成二十一年十一月末日の受注件数が千二百四件、契約金額三千六百三万円となっており、前年同期に比べて約二十八パーセント増となっております。

要因としては、緊急雇用創出事業(道路除草事業ほか六事業)を町から受託したことによるものです。

また、独自事業の取組みとして、「しめ飾り作り」を行っております。



**通常総会での表彰状況**

今年の予約申込数は、玄関用約千二百個、自動車用四百個を受注しており、総事業費は約百万円を見込んでおります。

当シルバー人材センターは、会員各位の豊かな経験と知識、優れた技術・技能を活かしながら、生きがいと社会参加の推進を図ることにより、活力ある地域社会づくりを目指しており、発注者皆さまに信頼され、活用されることにも、喜んでいただけるよう一層心掛けてまいります。



安全・適正就業パトロールの実施状況

# 趣味のひとつき

## みんなの喜ぶ顔が見たくて



(智頭町シルバー  
人材センター)  
会員 河村 集司

平成十二年、智頭町において「智頭宿まちづくり協議会」が発足し、

- ① ガイド部門
- ② 休憩所での食堂部門
- ③ 名物の杉玉作り部門

の3部門でのボランティア募集がありました。以前より「町づくり」についての私の想いや興味があったので、いずれかの部門に参加しようと思ひ、「毎日しゃべって楽しそう」と、ガイド部門に応募しました。

平成十三年、国の登録文化財「石谷家住宅」がオープンしてからは、毎日のようにガイドの依頼が舞い込むようになりました。

しかし、観光ガイドに対する町民の理解が得られず、くじけそうになったことも度々ありました。

観光ガイドを始めて十年経ち、いまでは地元や家族からの理解もあり、ボランティアガイドに「はまってしまった」感があります。

「もてなしの心」があれば  
誰でもできる

「また、河村さんに案内してほしく」「ようやくとなるなあ」と言われると、やはり嬉しい。

ガイドはやりがいのある仕事、生きがいです。「シニア世代だからこそできる」とも思う。

### 「智頭宿雪まつり」の贈り物

平成二十二年一月二十日～三十一日の両日、我が町で「智頭宿雪まつり」が開催される予定で、雪まつりの夜を彩る「ちようちん」をつくっています。

これは、杉の廃材を利用したもので、大きさは30cmほどで、格子状の骨組みの中にくわそくを立て、和紙を張り付け、防水スプレーを吹きかけて仕上げるというものです。

雪まつりの夜、智頭宿の「塩屋出店」前で、観光客の皆さんへプレゼントする計画で、まつりまでに、およそ60個完成させたいと、ガイドの合間を見つげ、頑張っています。

### 毎日しゃべって楽しく

### 健康であることに感謝

これが、私の生きがい・最高の趣味です。



国登録有形文化財に登録されている「塩屋出店」



雪灯籠に照らされた興雲寺



石谷家住宅（国登録有形文化財）

# 会員の広場

## 「観光ガイド」が脳に活力



(社)倉吉市シルバー人材センター

福井 千尋

鳥大医学部長 井上貴央博士の「弥生人の骨」の講演を聴く機会があり、大正時代の平均寿命が42歳と聞いて驚いた。せめて現代の平均寿命(79歳)までは、体力と気力が充実した日々でありたいと始めた筋トレジム通いも気がつけば25年が過ぎた。

なまじ体力に自信があるだけに、もし認知症になって徘徊でもし出したら厄介だ。

ボケ対策に役立てばと、8年前に当センター「観光ガイド班」の会員となった。

お客さんを出迎えた瞬間、初対面の大勢の人達との突然のふれあいは新鮮で刺激的。歩きたい人と歩けない人。ルート設定・時間配分・買い物配慮・トイレの心配。「楽しんでらおう」とおもしろ可笑しく語りかけながらも頭の中はパニック!この緊張感が私の「脳トレ」。老化防止策の一つなのは間違い。

都度、身だしなみを整えるのも億劫で、大変だから止めようか?吾がために止められない。

い。まだまだスキーやゴルフを続けたいから。



## 「ただの人の人がンにバー会員に



(社)琴浦町シルバー人材センター

田 鞆 誠 基

定年退職し、地域社会へ恩返しすることはないだろうか?と考えていたとき、シルバー人材センターへの誘いをいただきました。技術を持たない「ただの人」の私ですが、ためらいながらも会員になりました。

今は、天ぷら油回収、障子・襖の運搬、高齢者宅でのお手伝いです。最近、知らない

土地で初めての人との対応に戸惑うこともありましたが、ベテラン会員さんの適切な指導で大きなトラブルもなく働いてきました。「きれいに明るくなり、さっぱりした!」との身に余る言葉をいただく度に、疲れを忘れてしまいます。

少子高齢社会が進み、身近なところにもシルバー人材センターの果たす役割が多くなつたと感じます。

これからは、私も高齢となっていくため、体力づくりにジョギングをしたり、脳への刺激のためにも、シルバー人材センターでの仕事を続けます。作業中の怪我はもちろんのこと、通勤途上での交通事故も絶対に起こさない!を肝に銘じている私の昨今です。



講習会に参加して

社会保険業務補助講習会

受講して

(米子会場)



米子市 藤岡 伯子

二十歳を過ぎると、誰もが加入しなくてはならない「国民保険」や労働者が加入する「社会保険」制度についての仕組みや詳細を知らないでいる人が案外多いのではないのでしょうか。今回の受講で、すべての分野を網羅することはできませんでしたが



が、特に私達、受講者がこの先直面していく六十歳以上における年金及び医療制度に関しては、大変ためになり、保険給付についてや相互扶助の大切さを学ぶことができました。

私事ですが、主人が今年60歳になり、年金を受給しながら働いております。今回の受講は、今後の年金受給において大変役立ち、知識の必要性を改めて認識しました。

先般、アメリカではオバマ大統領が「医療保険法案」の改革の必要性を訴えていましたが、多々反対もあり、困難を極めているようです。

その点、日本では社会保険制度が整備されていますので、安心して暮らせています。

相互扶助（若い人や健康な人が弱者に）の大切さをもっと広く知らしめることも、大切な事項だと思えます。と同時に、今後益々高齢化していく中、健康に留意しながらも社会



に貢献できる生き方を目指したいと思っております。

一日六時間の講習を浦部先生には大変熱心に講義していただきました。質問が相次ぎ、その都度丁寧に事細かに答えてくださり、休憩時間がいつの間にか過ぎていたことも度々で、皆さんの関心の深さが伺われ、大変活発で有意義な楽しい八日間でした。本当に有り難うございました。

また、この講習を主催していただきました「シルバー人材センター連合会」の皆様によりお礼を申し上げます。

訪問介護員養成研修 2級課程に参加して

(倉吉会場)



倉吉市 秋田 由美子

訪問介護養成研修（2級課程）は、8月20日から10月2日までの24日間、参加させていただきました。その内、3日間は実習でした。何日か前に、研修のお誘いがありましたが、大変な仕事であること、24日間休まず出席できるだろうか、不安であったため、お断りさせていただきました。

その後、家族の看護が始まりました。不慣れなために、無理な体勢で体を動かしたり、着替えをさせたり、オシメを替えたりしてしまいました。私も使わなくても良いところに力を入れ、腰・腕を痛め、湿布を貼っての看護でした。

お互いが大変な日々でした。「あの時に研修を受けて勉強していれば」と、後悔をしていました。講義は難しい内容もありましたが、皆さんと一緒に考えていたり、ゲーム・運動（体操）したりしている内に緊張も和らぎ、不安も薄れていったように思います。



す。杖を使って階段の上り下り、車椅子の乗り方・介助の仕方、移動の仕方、またポータブルトイレへの移動の仕方等の実習をしました。

半身不随であることを忘れ、慌てる始末。目隠しをして平地や階段の上り下りでは、介助してくださる方の言葉を頼りに歩行しました。介助される人の適切な声掛け指導がないと、大変なことになるのではと思いました。

施設の実習では、80代の女性の見守りでした。施設の人から、「この方は水分摂取が少ないので、気をつけてください」との連絡事項でした。食事の時間になり、

「お飯ばかり食べられるので、おかずも食べましょう」といつでも返事はなく、お茶を勧めると手を払われ、無言のまま食べられておられました。時間はかかりましたが、全部食べられ安心しましたが、お茶はわずかししか飲まれませんでした。

お昼を過ぎた頃から、少しずつお話ししてくださるようになり、笑顔も見られるようになりました。私たちの帰る時間がきたので、「今日はこれで帰ります」と言うのと、「また、明日もくる」と聞かれ、「明日も来るからネ。忘れないうで」と言うと、笑顔で頷いてくださいました。



受入れてもらえなかったことが、とても嬉しかったです。

デイサービスでは、来られた方々を車椅子での誘導から始まり、お茶を飲みながらお話ししたり、ちぎり絵をしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたり、私の方が皆さまよりはしゃいでいたように思います。

この度の研修に参加させていただき、ありがとうございました。そこで教わったこと、実習したことが活かしていければと思っています。

講師の先生の方々、また、実習させていだいた施設の方々、色々お世話になりました。ありがとうございました。

# ●鳥取県の最低賃金●

最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、鳥取県内では、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することはできません。

## ◎鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される

鳥取県最低賃金 (1時間 630円)	発行年月日 平成21年10月8日
-----------------------	---------------------

## ◎鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される

鳥取県電気機械器具・情報通信機械器具 ・電子部品・デバイス製造業最低賃金 (1時間 730円)	発行年月日 平成20年12月25日
---	----------------------

鳥取県各種商品小売業最低賃金 (1時間 689円)	発行年月日 平成20年12月27日
------------------------------	----------------------

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

鳥取労働局賃金室	電話(0857)29-1705
鳥取労働基準監督署	電話(0857)24-3211
米子労働基準監督署	電話(0859)34-2231
倉吉労働基準監督署	電話(0858)22-6274

## ※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。



新年あけまして

おめでとうございます

本年もよろしく

お願い申し上げます

平成二十二年



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会  
スタッフ一同

# (社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

(平成22年1月1日現在)

名 称	〒	所 在 地	電 話	FAX	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0845	鳥取市富安2-104-1	0857-22-0050	0857-22-0051	木島敏行
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	中林正樹
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-22	0859-47-4540	0859-47-4541	西村岩市
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	田子 貢
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	小林實夫
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	谷口幹彦
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	足立春人
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1004	足立慎夫
(社)北栄町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220	0858-36-6227	日置勝彦
(社)大山町シルバー人材センター	689-3332	西伯郡大山町末長269-1	0859-53-4787	0858-53-1310	林原彦一
(一・社) 八頭町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-3351	0858-72-3351	衣笠春寿
江府町シルバー人材センター	689-4413	日野郡江府町州河崎62	0859-75-3211	0859-75-3211	宇田川 勉
日野町シルバー人材センター	689-5131	日野郡日野町黒坂1247-1	0859-74-0870	0859-74-0365	瀬田寿幸
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-0223	山浦基治
三朝町シルバー人材センター	682-0152	東伯郡三朝町本泉359-1	0858-43-1883	0858-43-1883	馬野忠嗣

## 表紙のことば

### 「仁風閣」(国指定重要文化財)

山陰に残る唯一の明治洋風建築。

明治四十年、時の皇太子(後の大正天皇)の山陰行啓の宿舎として建てられた。フレンチ・ルネッサンス様式を基調とした白亜の木造瓦葺二階建。

写真提供 小松民治

(鳥取市シルバー人材センター会員)

## あとがき

今回も、関係各位のご協力によりまして第二十二号が発行できました。まずもって、厚くお礼申し上げます。

依然として不況から脱却できないまま、今年に入ってから、政権が民主党に交代し、行政刷新会議の事業仕分けによって、我がシルバーに新たな危機が訪れています。シルバー存続にも係わる重大な試練です。この難局を乗り切るため、昨年末より色々な対策を講じていますが、シルバー会員・事務局職員がさらに結束を深めて行きたいと思えます。

## 会報鳥取 第22号

平成22年1月発行

発行：社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

所在地：〒683-0812  
鳥取県米子市角盤町1丁目76

電話：0859-37-2531

FAX：0859-37-2537

印刷：(有)ニシキ印刷  
鳥取県米子市灘町3-150

電話：0859-32-2250